

GLORY

GLORY REPORT

グロリーレポート

トップメッセージ

『2017中期経営計画』の総仕上げに
取り組んでまいります

p05

特集

保守本部長インタビュー

現場対応から予防保守 そしてソリューションの提供へ

p07

トピックス1 ヒト型ロボットで生産現場に革命を

トピックス2 ワールドワイドにますます活躍するグローリー製品

第71期
報告書

平成28年4月1日から
平成29年3月31日まで

Contents

ハイライト	01	トップメッセージ	02	特集	05
トピックス	07	財務データ	09	会社情報	10
株主メモ					

グローリー株式会社

GLORY Highlights

売上高

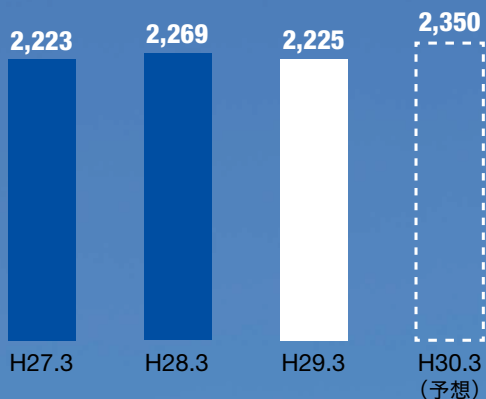
2,225 億円

営業利益

203 億円

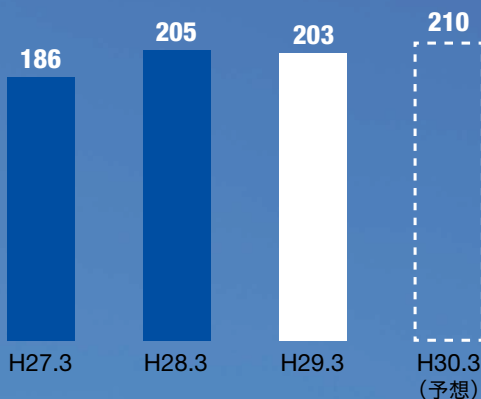
売上高

(単位:億円)



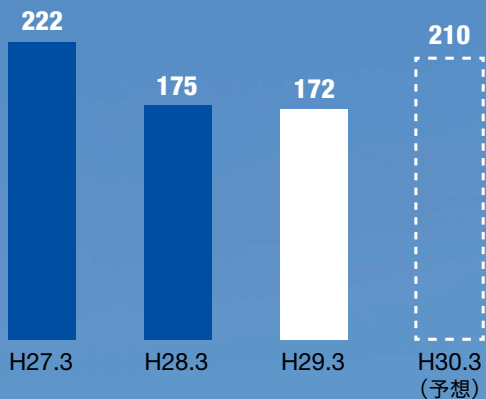
営業利益

(単位:億円)



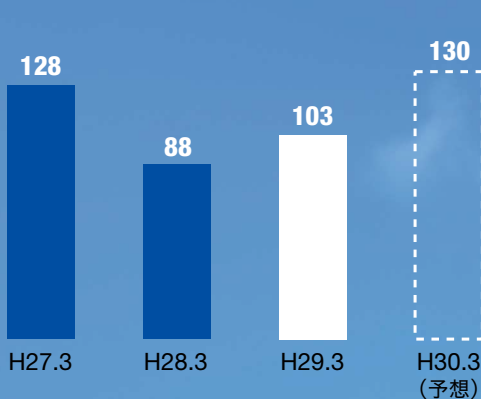
経常利益

(単位:億円)

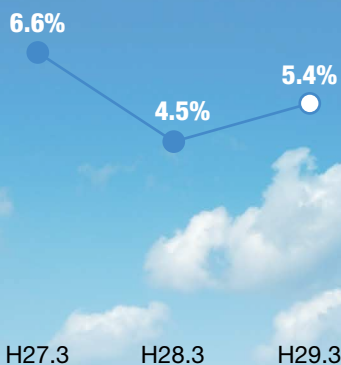


親会社株主に帰属する当期純利益

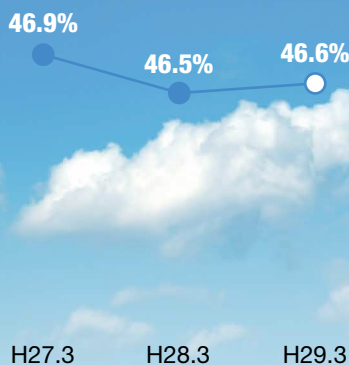
(単位:億円)



ROE



海外売上高比率





『2017中期経営計画』の
総仕上げに
取り組んでまいります

代表取締役社長

尾 上 和

平成29年3月期の事業概況について

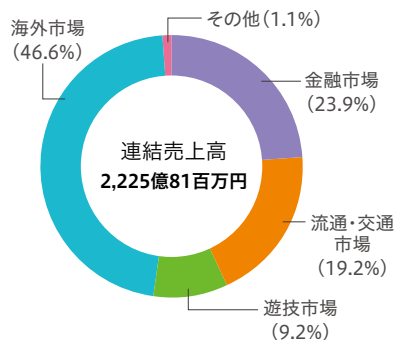
海外の流通市場向け製品の販売が好調、為替の影響を除くと増収増益

当社グループは、平成27年4月からの3ヶ年を計画期間とする『2017中期経営計画』の2年目として、“長期ビジョン達成に向けた「顧客起点のモノづくり」による事業成長と収益性向上”を基本方針に諸施策を展開し、当期の連結業績は、売上高、営業利益ともに前期を下回ったものの、為替の影響を除くと、増収増益となりました。

セグメント別にみますと、国内事業では、金融市場においてマイナス金利の影響が懸念されたものの、主要製品である「オープン出納システム」のコンパクトタイプや窓口用「紙幣硬貨入出金機」の販売が大口受注や更新需要の獲得等により好調に推移いたしました。一方、流通・交通市場では、主要製品である「レジつり銭機」の販売が前期にあった大口需要の反動により低調でありました。遊技市場では、ホールの設備投資抑制が続いており、主要製品である「カードシステム」等の販売が低調でありました。

海外市場では、金融市場に次ぐ新たな柱として育成すべく注力してきた流通市場において、小売店舗向け現金管理システム「CASHINFINITY™」の積極的な営業展開が功を奏し、欧州、米国における販売が拡大いたしました。また、主要製品である「紙幣入出金機」やOEM向け新製品であるATM用「紙幣入出金ユニット」の販売も業績に寄与し、市場全体として、現地通貨ベースでは好調に推移いたしました。

セグメント別売上高



※ ()内数値は構成比

	平成28年3月期(前期)	平成29年3月期(当期)	前期比
金融市場	518億 19百万円	533億 1百万円	+2.9%
流通・交通市場	455億 31百万円	426億 57百万円	-6.3%
遊技市場	215億 6百万円	204億 34百万円	-5.0%
海外市場	1,055億 95百万円	1,037億 87百万円	-1.7%
その他	24億 98百万円	24億円	-3.9%
合計	2,269億 52百万円	2,225億 81百万円	-1.9%

平成30年3月期の重点施策について

グループを挙げて『2017中期経営計画』の総仕上げに取り組む

平成30年3月期は、『2017中期経営計画』の最終年度であるとともに、創業100周年を迎える節目の年です。事業成長と収益性向上に向け、全社一丸となり各戦略に取り組んでまいります。

まず、国内の金融市場では、平成16年の新紙幣発行時に販売した製品が買替えのタイミングを迎えておりますので、更新需要を確実に獲得してまいります。流通市場では、店舗運営の効率化や人手不足解消のため、買物客自身が代金を精算するセミセルフ方式の採用が増加しておりますので、この方式に対応した「レジつり銭機」の提案活動を強化し、一層の販売拡大を図ります。

海外市場では、現金管理や精算業務が機械化されていない地域も多く、業務の効率化、厳正化を実現する当社製品の販売ポテンシャルは高いと感じております。こういったニーズを捉え、金融市場向けには、欧州、米国で窓口用「紙幣入出金機」の販売をさらに強化するとともに、中国でも同製品の導入を促進してまいります。急速な成長を続ける流通市場では、「CASHINFINITY™」の導入提案を一段と強化し、海外事業の新たな柱にすべく事業展開を加速させてまいります。

また、新しい取組みとして、ヒト型ロボットを活用した自動化ラインを構築する事業に参入いたしました(7頁ご参照)。今後3事業年度内に10億円以上の事業規模を目指してまいります。

次期の見通しについて

事業成長と収益性向上により、業績目標の達成を目指す

次期のがわが国の経済につきましても、急激な円高や株価変動等の不安要因はあるものの、雇用情勢や所得環境の改善等を背景に、景気は引き続き回復基調で推移するものと予想さ

2017中期経営計画

基本方針

長期ビジョン達成に向けた
「顧客起点のモノづくり」による事業成長と収益性向上



基本戦略

事業戦略	機能戦略	企業戦略
事業規模・領域の拡大による 収益性向上	市場ニーズに応える製品及び サービスのタイムリーな提供	グループ経営基盤の強化
<ul style="list-style-type: none"> ● 国内事業 ● 海外事業 	<ul style="list-style-type: none"> ● 製品開発 ● 生産・調達 ● 品質保証 	<ul style="list-style-type: none"> ● グループ・ガバナンス ● 人事 ● 資本・財務 ● 情報システム

れます。一方、世界経済につきましては、欧州、米国の景気拡大などにより景気は緩やかに回復するものの、地政学的リスクの経済への波及懸念など、先行きの不透明感は引き続き高いものと予想されます。

こうした状況のなか、当社グループは、『2017中期経営計画』の最終年度として、各施策に着手に取り組み、平成30年3月期の連結業績につきましては、売上高2,350億円、営業利益210億円、経常利益210億円、親会社株主に帰属する当期純利益130億円の達成を目指してまいります。

配当について

当期の配当は、前期比4円増の1株あたり60円

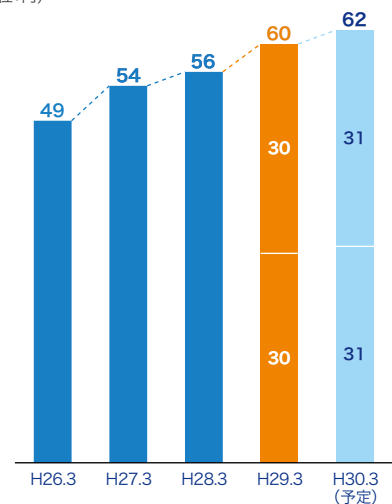
当社は、株主のみなさまに対する利益還元を経営の重要課題と位置づけ、将来の事業展開に備えた財務体質の維持・強化を図りつつ、安定した配当を継続することを基本方針とし、連結配当性向30%以上を目標に配当を実施することとしております。この方針に基づき、当期末の配当につきましては1株あたり30円とさせていただきます。中間配当金30円を加えた年間配当金は、前期比4円増の60円となりました。

次期の配当につきましては、さらに2円を加え、1株につき62円（中間配当金31円、期末配当金31円）とさせていただきます。

株主のみなさまにおかれましては、今後ともなお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

配当金の推移

(単位:円)



現場対応から予防保守 そしてソリューションの提供へ



お客様の満足度向上に加え、近年では、新たなビジネスを生む起点として、保守サービスへの注目が高まっています。これまでも質の高い保守サービスで定評をいただいていたグローリーですが、さらなる進化に向けた取組みについて、保守本部長の馬淵がお話します。

取締役 専務執行役員 保守本部長

馬淵 成俊

05

GLORY REPORT

Q グローリーの保守サービスの特長を教えてください。

今回は私の統括する国内での保守サービスについて話をさせていただきますが、特長の1つとして、全国に111ヶ所のサービス拠点を展開し、グループ会社を含め約900名のテクニカルスタッフを配置する等、充実した保守体制である点が挙げられます。これにより、迅速で質の高い保守サービスを実現しています。特に警備輸送会社を始めとする流通・交通市場のお客様向けには、24時間365日体制で保守サービスを提供するなど、常に安心して製品をお使いいただける環境を整

えています。

また、東西2ヶ所のコールセンターでは、お客様の導入製品や保守履歴等を瞬時に特定できるため、問題の早期解決が可能です。昨年には、国際レベルの品質を有するセンターであることの証明である「HDI*1 サポートセンター国際認定」を取得することができました。

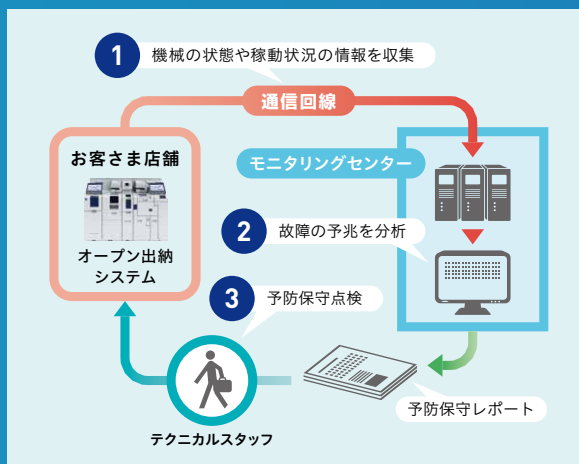
*1 米国に本部を置く、サポートサービス業界における世界最大の国際機関であるヘルプデスク協会 (Help Desk Institute)

Q 現在、特に力を注いでいることは何ですか？

現在は「モニタリングサービス(遠隔保守管理システム)」の拡大に力を注いでいます。多くの金融機関でご利用いただいているオープン出納システム等の通貨

処理機は、金融機関における重要なインフラとしての役割を担っており、いかに安定稼動を維持するかが最も重要です。また修理の際は厳正かつ迅速な対応が

モニタリングサービス イメージ図



求められます。そこで、試験的に遠隔で稼動状況が判る「モニタリング」を始めたところ、予防保守*2がもたらす大きな効果を確認することができました。平成27年より本格運用を開始したモニタリングサービスは、おかげさまでご好評をいただき、導入されるお客さまが着実に増えています。

*2 故障を予知して事前に保守を行うこと

最近の新たな取組みを教えてください。

予防保守を目的としてスタートしたモニタリングサービスですが、取引件数や処理量、使用時間帯等、製品の利用状況が知りたいという声があり、新たなサービスの可能性が見えてきました。そこで取り組んだのが、お客さまの役に立つ情報の提供と、その情報に基づくソリューション提案です。

また、券売機を導入いただいているお客さまには、

ASPサービス*3として売上集計分析や勤怠管理等の店舗支援を行うなど、従来の枠にとどまらない新しいサービスの提供を開始しました。

私たちは、従来の製品サポートだけではなく、お客さまの業務プロセスにまで関わり、新たな価値を提供できる保守サービスを目指しています。

*3 インターネット等を通じて利用者にソフトウェアを提供するサービス

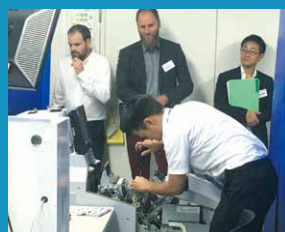
保守サービスの今後についてはどのように考えていますか？

保守サービスのご提供にあたっては、より早く (Fast)、より的確に (Accurate)、より誠実に (Sincerity) を、つねにこころがける (Think)、「FAST」主義を実践しています。

特に、これらを担うテクニカルスタッフについては、技術力とモチベーションの向上を目的に、スキル別の資格認定や保守の技術力を競う全国競技大会の開催、また、通貨を扱う環境下での基本行動の徹底に力を入れており、通貨インフラを支えるうえで大変重要な役割を担っているとの責任感がスタッフ全員に根づいています。



震災の際に早期復旧に向けて作業するテクニカルスタッフ

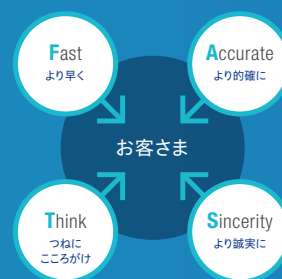


全国競技大会「TSカップ」

東日本大震災や熊本地震等の災害の際には、お客さまが1日も早く営業を再開できるよう、昼夜を問わず親身になり対応するテクニカルスタッフを見て、非常に心強く、彼らを誇りに思いました。

この「FAST」主義を一層磨き、製品の安定稼動はもちろん、より幅広いソリューションを提供できる保守サービスこそが、私たちの目指す姿です。モニタリングサービスやASPサービスはその一端に過ぎません。私たちはこれからも、お客さまに寄り添い、もっとお客さまの声を聞き、Win-Winの関係で『お客さまとともにサービスを創っていく』、そのような存在でありたいと考えています。

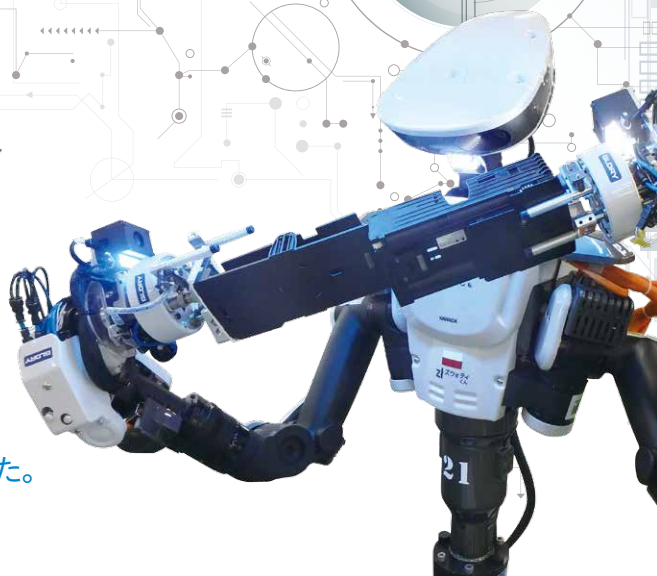
グローリーの保守は「FAST」主義



ヒト型ロボットで 生産現場に革命を

～ ロボット導入支援事業に参入～

当社は、これまでに培ってきた自社のノウハウを
他社のもづくり現場で役立てていただく
新たな事業として、ロボットを活用した
システムインテグレーション技術の提供を開始いたしました。



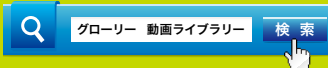
当社の埼玉工場^{ネクステージ}で、ヒト型双腕ロボット「NEXTAGE*」を導入したのは、平成22年。製品組立に利用できるようシステム開発を進め、人との協働を実現しました。平成28年には、自社開発した3本の指を持つハンド部分を搭載し、小さな部品をつまむ等、人のように細かな作業ができるようになりました。現在、工場ではロボット23台が稼働し、レジつり銭機を製造。部品のピッキングと配膳から、組立、完成品の目視、動作検査までを自動化した最先端の製造ラインを構築しております。

当社では、これらの技術を活かし、本年より、生産現場におけるロボットを活用した自動化ラインの構築から、周辺設備の整備、アフターサービスまで、トータルでの提供を開始いたしました。生産現場で細かな手作業を必要とする食品、医薬品、化粧品業界等におけるさらなる省力化や品質の安定化に貢献してまいります。

製造ラインで活躍する
「NEXTAGE」



ウェブサイト
で動画を
ご覧いただけます。



* 画像を認識する「目」、2本の「手」を持つヒト型双腕ロボット。カワダロボティクス株式会社が製造。

株式会社資生堂様 掛川工場へ試験導入

平成29年3月、株式会社資生堂様の掛川工場において、当社がシステム開発を行ったNEXTAGEが試験導入されました。従来の産業用ロボットでは困難であったファンデーションの箱詰め作業等、細かな作業をNEXTAGEが担当。化粧品業界において、製品の組立工程にヒト型ロボットが導入されたのは世界初です。



人とロボットの協働作業の様子
(株式会社資生堂 掛川工場にて)

ワールドワイドに ますます活躍するグローリー製品

世界の金融機関に加え、
流通市場においても広がり続けるグローリー製品。
今では小売店や飲食店でも
見かけるようになりました。

Akomi (アコミ)

チェコ共和国にあるレストラン「Akomi」に、小売店舗向け現金管理システム「CASHINFINITY™」が導入されました。同店では、来店客が料理を受け取ったあと、店員がレジで料理の代金を入力し、最後に来店客自身が本製品で代金を精算するセミセルフ方式を採用しています。これにより、支払いに要する時間は従来に比べ50%削減。さらに、店員が現金の計数や始業・終業時の在高確認に費やす時間は従来の1時間から20分へ短縮され、大幅な業務の効率化を実現しました。またレストランのモダンな内装に溶け込む洗練されたデザインも高く評価されています。



Akomiのレジカウンター

Crédit du Nord (クレディデュノール)

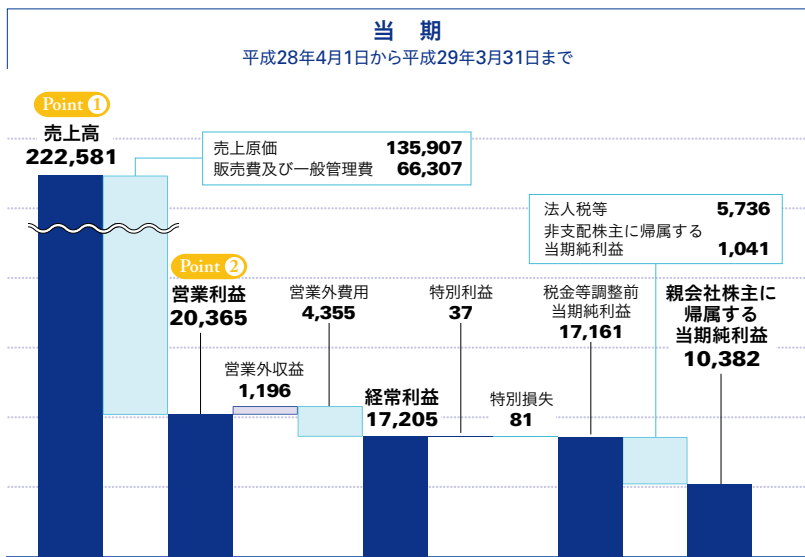
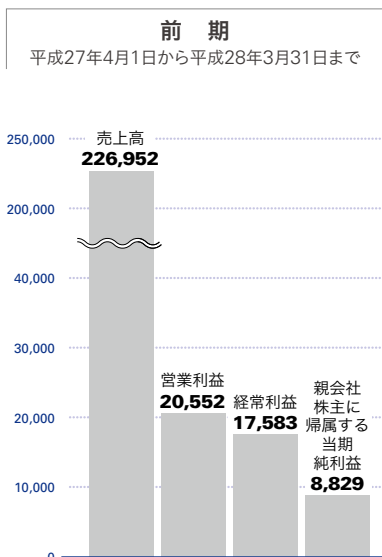
フランスの信用金庫「Crédit du Nord」の98店舗で窓口用紙幣入出金機〈RBG-200〉が稼動しています。本製品は当社独自の紙幣収納技術により、サイズの異なる様々な紙幣を取り扱うことができます。7金種のユーロ紙幣が流通するフランスでは、平成25年より順次新紙幣が発行されており、本年4月には新50ユーロ紙幣の流通が始まったばかりです。それらすべてを1台で正確に読み取ることができる汎用性と、多くの紙幣を格納できる収容能力が評価され、本製品の導入につながりました。また、機械内では紙幣の正損選別も行っているため、折れや破れ等のない紙幣を支店内ATMの出金用紙幣として再利用することも可能です。



Crédit du Nordの店舗

財務データ

連結損益計算書の概要 (単位: 百万円)



Point

① 売上高

円高の影響に加え、金融市場を除く国内の各セグメントでの販売が低調であったことから、前期に比べ1.9%減少しました。

② 営業利益

円高の影響はあったものの、海外市場におけるプロダクトミックスの改善等により、前期並みとなりました。

③ 固定資産

タラリス社買収に伴う「のれん」等の償却が進んだことに加え円高の影響もあり、無形固定資産が前期に比べ178億76百万円減少しました。

④ 負債

退職給付に係る負債が21億88百万円減少したこと等により、前期に比べ20億8百万円減少しました。

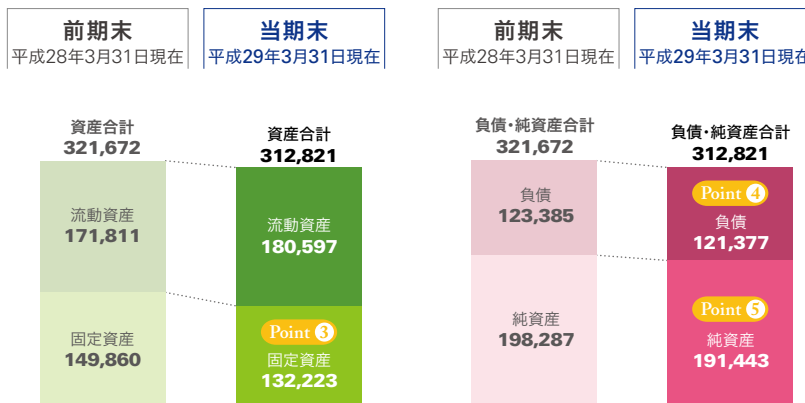
⑤ 純資産

利益剰余金は増加したものの、為替換算調整勘定の減少や自己株式の取得等により、前期に比べ68億43百万円減少しました。

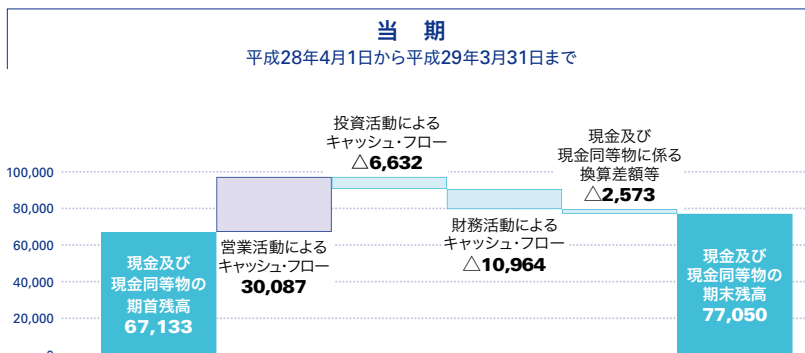
⑥ 連結キャッシュ・フロー計算書

投資活動によるキャッシュ・フローは66億32百万円のマイナス、財務活動によるキャッシュ・フローは109億64百万円のマイナスであったものの、営業活動によるキャッシュ・フローは300億87百万円のプラスとなったことにより、現金及び現金同等物の期末残高は期首と比べ99億17百万円増加しました。

連結貸借対照表の概要 (単位: 百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位: 百万円)



会社情報 (平成29年 6月23日現在)

会社概要

商号	グローリー株式会社 GLORY LTD.
設立	昭和19年(1944年)11月27日
資本金	12,892,947,600円
ウェブサイト	http://www.glory.co.jp
従業員数	3,246名(連結 8,440名) (平成29年 3月31日現在)
本社	〒670-8567 兵庫県姫路市下手野一丁目3番1号 TEL: 079-297-3131(代表)
事業所	本社・本社工場 (兵庫県姫路市) 東京本部 (東京都千代田区) 品川事業所 (東京都品川区) 埼玉工場 (埼玉県加須市) 姫路物流センター (兵庫県姫路市) 支店等 東北支店(宮城県)、関東支店(埼玉県)、 上信越支店(群馬県)、首都圏支店(東京都)、 東海支店(愛知県)、近畿支店(大阪府)、 中国支店(広島県)、四国支店(香川県)、 九州支店(福岡県) 39営業所、30出張所、3サービスセンター

連結子会社

【国内】

グローリープロダクツ株式会社
グローリーナスカ株式会社
北海道グローリー株式会社

他8社

【海外】

光栄電子工業(蘇州)有限公司
GLORY (PHILIPPINES), INC.
Sitrade Italia S.p.A.
Glory Global Solutions Ltd.
Glory Global Solutions (International) Ltd.
Glory Global Solutions (France) S.A.S.
Glory Global Solutions Inc.
Glory Global Solutions (Singapore) Pte. Ltd.
Glory Global Solutions (Shanghai) Co., Ltd.

他28社

当社グループの主な拠点



役員一覧

取締役

代表取締役社長	尾上 広和
代表取締役副社長	三和 元純
取締役	尾上 英雄
取締役	馬淵 成俊
取締役	小谷 要
取締役	原田 明浩
社外取締役	佐々木 宏機
社外取締役	井城 讓治

監査役

常勤監査役	長島 正和
常勤監査役	藤田 亨
社外監査役	中上 幹雄
社外監査役	濱田 聡

株式の状況 (平成29年3月31日現在)

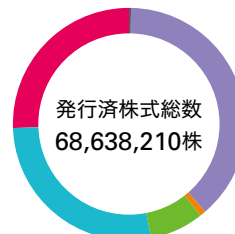
発行可能株式総数	150,000,000株
発行済株式の総数	68,638,210株 (自己株式 4,496,099株を含む)
株主数	5,795名(前期比 251名減)

大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本生命保険相互会社	3,427	5.0
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,401	5.0
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,747	4.0
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505223	2,302	3.4
株式会社三井住友銀行	2,100	3.1
グローリーグループ社員持株会	2,080	3.0
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	2,007	2.9
タツボーファッション株式会社	1,500	2.2
CBNY-GOVERNMENT OF NORWAY	1,349	2.0
JP MORGAN CHASE BANK 385174	1,297	1.9

(注)上記のほか、当社が所有している自己株式4,496,099株があります。

所有者別株式分布状況



政府・地方公共団体	0.2%
金融機関	38.5%
金融商品取引業者	0.9%
その他の法人	7.6%
外国法人等	27.3%
個人・その他	25.5%

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月に開催いたします。
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当 3月31日 中間配当 9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
単元株式数	100株
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部
証券コード	6457
公告方法	電子公告によります。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 [公告掲載URL] http://www.glory.co.jp
株主名簿管理人／ 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
〔各種お問合せ先／ 郵便物送付先〕	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL：0120-094-777(通話料無料) 受付時間 9:00～17:00(土、日、祝祭日、年末年始を除く)
〔ウェブサイトアドレス〕	http://www.tr.mufig.jp/daikou/

(ご注意)

- 株主さまの住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株主のみなさまの声をお聞かせください

当社では、株主のみなさまの声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。
お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。



※本アンケートは、株式会社 a2media(エー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社 a2mediaについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。
●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」TEL:03-5777-3900(平日 10:00～17:30) MAIL:info@e-kabunushi.com

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は3分程度です。



<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード **6457**

いいかぶ

検索



空メールによりURL自動返信 kabu@wjw.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケートのご回答期限:2017年7月31日まで

ご回答いただいた方の中から抽選で20名様に
薄謝(当社オリジナルノベルティセット)を進呈させていただきます

GLORY News

社内保育所「Gキッズホーム」を開設

社員のキャリア形成と子育てをサポート

当社は、社員の活躍推進に向けた取組みのひとつとして、本社構内に社内保育所「Gキッズホーム」を開設いたしました。職場から近い構内に子どもを預け安心して仕事を続けられる環境を提供することで、子育てをしながら働く社員のキャリア形成を支援してまいります。
また施設には、当社の顔認証システムを応用し、送迎者の来訪を保育所内へ通知し、自動でドアを解錠する仕組みを導入しております。
当社は今後も、すべての社員が活躍できる魅力ある企業を目指してまいります。



 **キッズホーム**
Glory Kids Home



グローリー本社構内に開設した保育所



地球環境保護のためにFSC®認証紙と大豆油インキを使用しています。